

1 情勢報告

梶原町に初めての集落営農組織「千年杉営農組合」ができました



設立総会の様子

1月29日、梶原町田野々部落で、梶原町で初めての集落営農組織となる「千年杉営農組合」（組合長 川上政志、組合員26名）が設立されました。

高齢化により個人での耕作が難しくなった圃場の作業の受け皿として、組織活動を始める予定です。2月8日には、初めての役員会が開かれ、活動開始に向けた話し合いが行われました。

今後、振興センターは組織活動の定着に向けた支援を行っていきます。

JA土佐くろしお管内普及推進協議会を開催しました



2月8日、JA土佐くろしお管内の農業者代表、市・町・JAに集まっていたいただき、H23年度の普及活動実績や来年からの産業振興計画、普及指導計画等について説明し、ミョウガ、キュウリ、シシトウでの取組成果、新規就農の状況等を発表しました。農家から「個別面談による目標設定・課題解決への実践等による成果を広げて欲しい、」等の意見が出ました。JAからは、JA出資型法人設立へ向け取り組んでいることが報告され、新規就農者への関係機関の支援について話し合いを進めることが確認されました。いただいた意見等を今後の振興センターの活動に活かして行きます。

JA津野山管内普及推進協議会を開催しました



2月16日、JA津野山管内の農業者代表、市・町・JAに集まっていたいただき、H23年度の普及活動実績や来年からの産業振興計画、普及指導計画等について説明しました。また、ミョウガでの作型前進化・かん水給液管理等により収量向上が図られた農家の事例や、目標所得額と栽培品目の組合せ例等の紹介をしました。農家から「個人面談で目標・課題がはっきりし、取り組み成果がすこしづつ上がってきた」、「天敵を入れて省力化ができた」等の意見がでました。また、津野町から直販所の取組から、加工所、アンテナショップの計画、オープン of the 予定を話していただきました。振興センターでは、いただいた意見等を今後の活動に活かして行きます。

J A 四万十ニラ部会大野見支部の定例現地検討会が開催されました



1月30日、現地検討会が開催され、全戸のハウスニラの生育状況を観察し、今後の管理作業の確認等が行われました。

巡回したハウスでは、灌水過多のところや白斑葉枯病、ロビンネダニ等の病害虫が発生しているところもあり、今後の管理作業等の検討がされました。また、育苗に失敗している方もあり、J A、振興センターからは、育苗管理と今後の管理作業等について指導助言を行いました。そして、管理作業が遅れ、出荷量が少ないところでは、参加者同士による注意がされていました。

今後とも振興センターは、J Aと連携した現地検討会を中心にした部会支部活動により、高品質安定生産につながる指導助言をおこなっていきます。

中土佐町から集落営農先進事例調査に行きました



中土佐町では、集落営農組織の活性化や集落営農の組織化などに取り組んでいますが、2月13日に神母野集落、奈路集落、長野集落、笹場集落の農業者21人と関係機関とで、集落営農先進地調査に行ってきました。

〔吉延営農組合〕では組織化に向けてどのように検討してきたか、また機械の所有状況やブランド米の栽培体系やPR方法についてお聞きしました。また、香川県の〔農〕アグリ天神〕では、組織化の経緯やブロックローテーションの取り組み、畦畔の管理、後継者や法人化についてお聞きしました。

参加者からは「早く、視察を受け入れるようになりたい」「参考になった」との意見がありました。振興センターでは今後も集落営農の推進に取り組んでいきます。

J A 土佐くろしおミョウガ部会が現地検討会を開催しました。



吾桑・神田地区の現地検討会の様子

2月20日、J A 土佐くろしおミョウガ部会の本年度3回目の現地検討会を、須崎市の吾桑・神田地区と多ノ郷地区で開催しました。

吾桑・神田地区では14名の生産者が参加し、現地ほ場のこれまでの栽培管理を聞き取りながら生育や管理のポイントを確認していました。ほ場主は栽培管理日誌を見ながら質問に丁寧に答えて、記録の大切さを参加者に説明していました。

振興センターからは、収穫期の基本栽培管理の説明と、ヒートポンプによる加温の温度測定データを情報として提供しました。重油が高騰し加温コストの低減が大きな課題となっており、参加者からは重油代替え加温機への期待が感じられました。

振興センターはJ Aと協力して今後も情報提供等行っていきます。